

# 銀友

本郷学園  
同窓会誌  
平成17年6月1日  
第34号



駒込駅ホームより望むつつじ

## 電



本年度の文化祭は  
9月23、24日です。  
卒業生のご来場を  
お待ちしております。

## 総会のお知らせ

日時 平成17年6月18日 15:00より  
場所 本郷学園会議室  
(懇親会は17:00より)

平成17年6月1日発行  
**本郷学園同窓会**  
発行責任者 山内 英夫

〒170-0003 東京都豊島区駒込 4-11-1 本郷学園内  
同窓会へのお問合せはFAXにてお受けします。

FAX: 03-3917-0007

## 文化祭に同窓会サロン

### (同窓・同期の交流の場)

同期会やクラス会のきっかけ作りにご利用下さい。校友が集う場を同窓会が微力ながら用意します。校友同士の友好。また、進学、就職の相談や仕事の悩みなど、人生経験豊富な先輩とのふれあいを通じて語らいませんか

開催予定 9月24日(日)13時より16時

まで

場所 三菱養和会内「レストラン

パルテール」

利用方法 文化祭会場内同窓会ブース

に立ち寄り同窓会サロン利用券を受け取り会場にお持ち下さい。同窓会ブース場所は、未定です。当日の文化祭案内を参照下さい。

## おねがい

「本郷学園のあゆみ」を学園が発行する事になりました。資料として、卒業アルバムから抜粋したいとの話があり、同窓会へ協力要請がありました。

本郷学園では、先の大戦で、アルバムが戦火にあった為、本郷中学(旧制)をご卒業された会員の卒業アルバム全回期が揃っていません。

そこで、同窓会員の皆様にご寄贈或いは、借用をお願い致します。

ご協力頂ける方は同窓会宛に着払いで送付して下さいます様お願い致します。

## 個人情報の

### 取り扱いについて

本年4月1日から個人情報保護法が施行されました。

同窓会事務局としては、皆様からお預かりしている個人情報の取り扱いについては、会報の送付ならびに会員との連絡、同窓会の業務、また同期会開催の為に必要とされる会員に対して等、必要不可欠な範囲に特定し、第三者に漏洩する事の無いよう管理を徹底する事とします。

## 編集後記

◆今年の銀友企画にクラブOB会を紹介する企画を立てました。問い掛けにスキー部、山岳部、野球部、バスケット部のOB会より、寄稿下さいました。次号も多くのクラブOB会より寄稿お寄せ下さい。

◆毎年銀友の投稿が少なく編集に苦慮しています。また、インタビューの人選にも苦慮しています。同窓会員の投稿及び推薦紹介をお待ちしています。

◆今年度の編集担当責任者を石井副会長(高6)に交代します。

同窓会編集委員一同

# 銀友三十四号 目次 平成十七年六月一日

会長挨拶	山内 英夫	2	文化祭報告	下関 秀之	20
本郷中学・高等学校校長挨拶	高橋 雄	3	平成十六年度定期総会報告	平野 隆之	22
蒙古襲来と「てつはう」海底からの検証	石原 涉	4	平成十六年度事業報告・会計報告		24
校友を訪ねて 北島康介氏インタビュー		6	平成十七年度事業計画・会計予算		25
現役の桜	篠 喜三郎	8	本郷学園同窓会会則		26
好奇心の充足	秋間 政	10	会費納入者一覧		28
築地市場探訪	新澤 米次	12	物故者		32
学園だより		13	編集後記		33
同期の輪		14			

# ご挨拶

同窓会会長

山内英夫（高三回）  
やまのうち



会長をお引き受けして一年、振り返ってみると、この一年の日本は災厄続きの多事多端の一年でありました。鳥インフルエ

こうした災害が、ようやく回復の動きを見せた日本経済にとつてブレーキとなり、このところ回復の動きは足踏み状態を続けていることとはご存知のとおりです。

さて、教育界においては、小中学生の国際的な学力テストにおいて日本人の学力低下が顕著になり、2002年に実施に移されたばかりの新学習指導要綱の見直しが論議される事態となっていますが、こうしたなかで母校本郷学園では学園関係者のご努力により中学校の入学率が年々高まり素質の高い生徒の入学が続いており、私学の特性を生かした教育により数年後には都内進学校ベストテン入りを目指すと聞き及んでおります。同窓生としてぜひ実現してほしいと願っているところであります。

ンザ騒ぎが収まり、アテネオリンピックでのメダルラッシュに沸いたものの、記録的な夏の猛暑に加え、気象庁観測史上例を見ない度重なる台風の本土上陸により日本各地は甚大な被害を蒙りました。そして10月に新潟県中越地方を襲った大規模地震は、その傷跡を今も深く残しています。大きな地震は今年に入っても福岡県を襲っています。海外でも、年末に起こったインド洋スマトラ沖大地震とそれに伴う大津波は地球史的な大災害をもたらしましたが、イラク情勢の混迷も加わり、

同窓会は今年も新たに三百数十名の新卒者を会員に迎え入れましたが、同窓会活動を活

発化させるのは同期の輪、同クラスの輪がその原点になることは言を待ちません。同窓会としてはあらゆる機会を捉えこの点を強調するとともに、同期会、クラス会の開催を側面的に援助する活動が続けていこうと考えております。平成16年度より学園の文化祭にあわせ同窓会サロンを設置し同窓生相互の交流とクラス会等の開催下打ち合わせの場を提供することにしました。本年もこの試みを継続することとしておりますので、同窓生の皆さん、気楽にお立ち寄りご利用くださることを願っております。

同窓会は会員の皆さんのご協力とご支援でありゆくものであります。今年も宜しくご協力ご支援をお願いしご挨拶といたします。

# ご挨拶

本郷中学・高等学校 校長 高橋 雄

同窓会の皆様には、日頃母校のため、後輩のためにご指導、ご支援をいただき誠にありがとうございます。

今年度は、中学校の志願者数が過去最高の2550名になり、高校の志願者数も304名の志願者数となり、本郷に対する人気と教育のあり方に共感された方が多かったことだと思います。これも同窓会の方々のご支援があったればこそ感謝しております。

さて、今の世の中は日本の行き先が見えてこないのが現状です。このような時に、大切なのは教育だと思えます。この世の中を変えるのは、これからの若者が世の中をリードしていく様にならなくては日本国は滅びてしまいます。しかし、今日本では20代の若者で、仕事をもたないニートとよばれる若者や引きこもりの若者が約30万人から50万人もいると言われている。しかも、毎年10万人から20万

人ずつ増え続けているようである。この若者達は、生きるためには働かなければならないこと、働くことで世の中のためになっている事を知らないのだろう。本郷の生徒には、このことをしっかり教えて卒業させるつもりです。それには、本郷での教育を次の様に実施していきます。

「文武両道を目指し、生活習慣をきちんとする」事を目標にする。具体的に、

- ①挨拶をきちんとする
- ②学則に違反しないようにする
- ③時間を大切にするように、1日の生活設計をきちんとする。

- ④文武両道を推進し、両立できるようにする。
- ⑤生徒会の活性化を図り、生徒自身で考え、判断し、実行できるようにする。

本郷の校訓である「強健、厳正、勤勉」を具体化すると、全人教育の実践だと考えます。

「国家有用な人材を育成する」ためには、他人を思いやる気持ち、努力を厭わない気持ち、常に向上心を持ちつづける気持ちを失わない様に教える必要があります。素直な良い生徒諸君なので、出来るはずです。

この紙面をお借りしてお願いがあります。毎年新入生に本郷の歴史を話そうと思っても生徒に渡す本がありません。来年の新入生から使える小冊子を、今、関口教諭を中心に作成しています。なかなか資料が集まりません。もし、お持ちの同窓生がおられましたら関口教諭にご一報ください。

同窓会の皆様には、21世紀の社会を担うであろう母校の後輩の指導、育成にご理解をいただき、よろしくご指導、ご援助をいただければと思います。

最後に、同窓会が今後ますます繁栄されるされますことを心から祈念致します。

# 蒙古襲来と「てつはう」——海底からの検証——

石原 渉（高二十四回）

平成四年七月のある日、私は長崎県北松浦郡鷹島町の神崎海岸に立っていた。眼前に広がる海原には、弘安四年（一二八一）にこの地を襲った大暴風雨により、海の藻屑と消えた四千四百隻の元（蒙古は一二六四年、国号を元とした）の艦船が沈んでいるはずである。昭和五十六年、文部省科学研究費古文化財の研究班として訪れて以来、毎年、この島の沖に潜っては、元軍の痕跡を求めて調査を続けてきた。この年も例年のように、同町の教育委員会から依頼を受けて、潜水調査に赴いていたのである。ただ、その年は我々にとって心強い助っ人がいた。漂着物研究の第一人者である石井忠先生が同行されていたのである。

潜水調査のメンバーは黙々と機材を身に付

けると担当の海域に潜っていく、こんな時、潜れない人は気の毒なくらい居場所がない。ご他聞に漏れず先生も海岸に一人取り残されてしまった。しかし、これが先生の本領発揮の契機となった。先生は落ちていた飼料袋を拾うと、波うちぎわを歩き始めたという。

一時間後、我々は水深十五メートルの海底を泳ぎ回り、元代の陶片を採集して浮上した。その時はほんの数点の陶片と、磚と呼ばれる煉瓦片を携えていたと思う。そこへ先生がニコニコ笑いながら「さすがに鷹島ですな、こんなに拾いましたよ」と飼料袋いっぱい詰めた。んだ陶片と、見慣れない丸い物を持ってこられた。私は感心するとともに、その丸い物に興味をひかれた。先生は石弾と思って拾ったらしいが、それは半分は割れていて、内側に

は赤錆がびっしりとついていた。「これは何でしょうかねえ」と問われ、私は「もしかしたらこれが『てつはう』かもしれないですね」と答えた。その会話を耳にした同行のM新聞記者は、それを翌日の夕刊に掲載したのである。だが、当時は話題にすら登らなかつた。しかし、これは紛れもなく七百十一年ぶりに発見された「てつはう」だったのである。

ここで「てつはう」の解説をしておこう。日本史の教科書を開くと、鎌倉時代の項を必ず飾っているのが、竹崎季長の蒙古襲来絵詞（国宝）である。それも塩谷の松（福岡市鳥飼付近）における戦闘場面で、元軍に肉迫する季長の勇姿と、その頭上で炸裂する「てつはう」の描写である。当時、火薬の存在を知らなかつた日本人は、大音響とともに炸裂するこの新兵器に驚愕し、それを「てつはう」と呼んで恐れた。この「てつはう」、実は「鉄火砲」の別名をもつ「震天雷」という中国の爆裂弾であった。これは一二三二年、蒙古と金の戦いに登場した兵器で、金の南京（現在



竹崎季長の頭上で炸裂する「てつほう」蒙古襲来絵詞より

「余冬序録」によれば「西安城上によく鉄砲をたくわう、震天雷というものを見る」とあり、明代の「格致鏡原」にも「形は碗を合わせたるが如く、頂きに一穴あり、(中略)火をもつてこれに点じ、砲あがり火発すれば、その声、雷の如く、百里の外に聞こゆ」とあって、当時の爆裂弾であったことが分かる。後に金は蒙古に滅ぼされた。当然、彼らの使用した武器類は接収され、蒙古軍に装備されたであろう。この兵器は初め鉄球として製作されたが、その後、量産のた

の河南省開封市)を囲んだ蒙古軍に対して、初めて金軍が使用した武器である。

中国の史書「余冬序録」によれば「西安城上によく鉄砲をたくわう、震天雷と

めに陶器で造られた。形も、瓢箪型、球型、合碗型、罐子型とあり、直径が16〜20センチ、重量が4〜10キロで、抛石機や手で投げたといわれている。

平成十三年の海底発掘調査で私たちはついにこの完形品を発見し、その後も多数の破片を確認したのである。これまで蒙古襲来絵詞だけで想像していた「てつほう」(以下、鉄砲と記す)の实物は、こうして再確認された。しかし、それが鉄砲と認識できたのも、平成四年の発見があったればこそである。おそらくこれまでにも鉄砲は幾度となく海岸に打ち寄せられていたに違いない。しかし普通の人が見えなかったろう。たまたま漂着物研究者の目に留まったのが幸運だったということだろうし、おかげで私は鉄砲を初めて鑑定する栄誉を担ったのである。

鷹島の調査は今も続いており、大量の武器や船体の一部が出土している。弘安四年に、もし大暴風雨が吹かなかつたら、その後の歴

史は大きく変わっていたに違いない。何しろ敵は十四万の大軍だったのである。しかしその後、この大風は「神風」といわれ、神州不滅のシンボルとなり、先の大戦では、若人に殉国を強いる言葉へと変容を遂げた。人間とはなんと悲しい生き物であろうか、新世紀を迎えてもなお、今だに無益な争いを繰り返し、尊い犠牲を省みようともしない。

いろいろな思いを胸に、私は、今年の夏

も鷹島の海底を調査する。それは歴史の検証こそが、愚かな人間への、唯一の警鐘であると、固く信ずるからである。

平成4年に発見された「てつほう」



校友を訪ねて

北島康介氏（高53回）インタビュー

# 本郷にいたからオリンピックに行くた



母校にやってきた北島先生

その日、北島康介は、体育教官室にいた。教育実習の資料作成に余念がなかった。声を気安くかけられる雰囲気ではなかった。

母校に、いわば「凱旋」したにも関わらず、浮ついたところは全くなかった。自分のペリスを、きっちり守っていた。アテネのプールで、「チヨ―気持ちいい！」と雄たけびをあげた北島と、同一人物とは思えなかった。どちらかと言えば、同窓生のよしみで、インタビュー出来た私のほうが、いささか浮いていた。

まずは、母校での教育実習の印象から尋ねてみた。

「緊張もするけど、知ってる先生も多いから

リラククス出来る」

「オリンピックに向けて、水の中ばかりにいたので、ペンを持つこと自体が新鮮」

率直な答えが返ってきた。しかし、教えることには、難しさを隠さなかった。

「まだまだ、教えることより、教えられることが多い。教えている自分に違和感がある」「自分だけにしかわからない感覚を、言葉にして伝えるのは難しい」

**自分への信用から取れた金メダル**

アテネオリンピックでメダルが取れた理由を自己分析してもらった。

「本郷高校3年で出場したシドニーオリンピックでは、4位とメダルに手が届かなかつ



た。その悔しさが大きなバネとなった。目標を定め、それを一つ一つクリアしてきた積み重ねの結果が、メダルに結びついた。

アテネでは必ず表彰台の一番高いところに立てると思っていた。自分のやってきたことを信じていたから、いい緊張が保てた」

北島康介本人が誰よりもいちばん自分を信じている。

それも生半可な信用ではなく、綿密な計画に基づいた練習メニューを、きちんとこなしてきたからこそ生まれる信用なのだ。100メートルという短い距離、1分ちよつとの短い時間で、それまで長い時間かけて取り組んできたことの答えが出てしまう。その答えが見えていたというのだから、すごいとしか言いようがない。

「彼は、計算しない計算が出来る」と、本郷高校時代の指導教官・三好教諭は言うが、北島本人は、「何にも考えていない」と笑う。「あのときはこうだったの？ああだったの？と周りから言われて、あとで気づくことはあるが、



そのときは、自然に体が動いているだけ」とこともなげだ。

三好教諭に有形無形に世話になったのとは問うと、「先生は、水泳のことに詳しくないから、それがかえってよかった。一歩引いたところからのアドバイスが嬉しかった。大会で応援している三好先生の姿を見ると、励みになった」と手放しの絶賛。そして「アテネに来ることが出来なかった三好先生を北京には、連れて行ってあげたい」と優しい一面を見せる。と、同時にこの言葉には、早くも、北京へ向けての意欲が込められていると受け止めた。

### クラスメイトに恵まれた本郷時代

本郷高校時代の思い出について、水を向けてみた。

「早退、欠席も少なく、スポーツという共通目的があったせいかな、まとまりがよく、3年1組は、仲のいい最高のクラスだった」

「クラスのメンバーに出会えたことは、大きな財産」

そして、先生やクラスメイトに恵まれた「本郷に来てなかったら、オリンピッククに行つてないかもしれない」と、本郷関係者が聞いたら、涙が出るような嬉しいことを口にした。

後輩に贈る言葉も聞いてみた。

「いい友達とめぐり合い、本郷の卒業生だということに誇りをもってほしい」

「国際的に活躍する人材が増えてほしい」

世界の桜舞台に立った男は、そう言って結んだ。

村上信夫（高24回）

2004年10月27日 本郷学園同窓会連絡室にてインタビュー

参加メンバー

秋元幹夫（高7回）、村上信夫（インタビューアー・高24回）、寺田正美（高24回）、平野隆之（写真・高26回）



## 現役の桜

「同期の桜」と言う言葉が、昨今内々のことばになってしまったが、サククス奏者、リチャード・パインこと松本易夫氏を紹介したい。

今も活躍している同期の一人である彼は、横浜を中心にジャズ・ミュージックを演奏し続け、ザ・リチャードパイン&カンパニーのリーダーとしてバンドの運営と、また各地でのライブを消化している。

数年前には、タイの国王が大のジャズファンで国を上げてのジャズフェスティバルに日本代表の一人として招待され、メンバーを率いて演奏してきたよし、国内では、各地のジャズフェスティバルに必ず指名されるという、今やジャズ業界では名の通ったサククス奏者なのである。

しかし、彼の偉い所は、70歳になる今も「サククス」という楽器を吹きこなしている事に、先輩の一人として誇りに思うし拍手を

贈りたい。

彼は、文京区小石川の生まれで、本郷から明大に進み昭和30年代前半から各地の米軍キャンプを渡り歩き、故石橋エイタロウ氏やハナ肇氏等とも親交があつて、腕を研ぎ、技を競い合い、1969年(昭和39年)初秋に「ザ・リチャード・パイン&カンパニー」を結成、スタンダードジャズ、ボサノバからリズム&ブルース、ファンク、ロックと幅広いレパートリーをこなす数少ないサクソ奏者なのである。TBS・TVサタデーヤングナイトにレギュラー出演、コンサート、ラジオのバラエティショー番組、FMライブコンサート等にも出演し、その傍ら東京、大阪などホテルのラウンジ・ナイトクラブ、外国における演奏活動、TV音楽ドキュメンタリー番組「音楽の旅はるかに」にミュージシャン・パーソナリティとしても起用され、その日本人離れした風貌と音楽センスと名ジョッキー振りは、各方面より絶賛されているよし、又CDアルバムも、再々リリースされていていて

Dシヨップにて入手できるし、更に「湘南パインクラブ事務局」でも彼のライブ予定日が判るようになっているので、興味のある方は、ジャズの好きな人と、或いは彼女と同伴してリチャード・パインの演奏にひとときを忘れるのも、時にはいいものではないかと言うことで、今も元気に、好きとはいえバリバリと活動している「松本易夫君」に乾杯！

追伸・湘南パインクラブ事務局

留守電/FAX・・・0466(33) 8373

Email: pineclub@cello.ocn.ne.jp

篠 喜三郎 (高6回)



栗原廣太郎、松本易夫、篠喜三郎

# 好奇心の充足

秋間 政 (高三回)

私の現在の生活は「赤塚史蹟を歩こう会」を中心に回っている。

2度目の定年で一切の公職から退いた時老人会のご婦人から「これからは人から声を掛けられるのを待っていては駄目ですよ。ただのつまらない老人になってしまいます。特に男は家事をしないから早く呆けてしまおう」と言われた。この言葉がきっかけで「毎日が日曜日で、今日は何をして過ごそうかなんて言う生活は絶対にしない」と心に決めた。それと自身の大病経験を世の中に役立てようと都・区・地域の健康関係の委員になり、「心身の健康のために好奇心を持って、新しい仲間を作り、楽しく体を動かす」を目標に平成12年1月に会員20名で「史蹟を歩く会」を立ち上げた。

最初は毎月1回、板橋区内の史蹟を歩いて

いたが、会員が増え130名ほどになったために平成14年からは月例会を2回に分け、新規加入も当分の間中止とした。また、区内は殆ど廻ってしまったために現在では区外を歩くことの方が多い。平成16年は「江戸4宿」を中心にして、その間に区内を折り込む。平成15年は「江戸五色不動」を、平成14年は「中山道」を中心にして、その間に区内を歩くコースを折り込む等の変化を持たせた。

会の運営は6人のスタッフがコースの事前調査や資料作り、開催通知・会計処理等をしてくれる。

それに先立って文献や現地の調査、月例会における参加者への説明原稿の作成と当日の説明、スタッフへの様々な指導は私の担当である。これらの仕事を並べただけでも1ヶ月の月例会のため外出が5日、その他に調査資

料の検討や原稿作成、配布資料の印刷等々のデスクワークもあって忙しいが楽しい充実した日々を過ごしている。

平成16年年末年初の活動を記すと

11月29日(月曜日)

「史蹟を歩く会」の1月例会の日本橋七福神の事前調査。今日の歩行数1万4千歩。

12月2日(水曜日)

板橋区健康ネット博協賛で「旧中山道板橋宿」を案内する。今日の歩行数1万2千歩。

12月8日(水曜日)

「旧中山道板橋宿の赤塚史蹟を歩く会」のメンバーを案内する。今日の歩行数1万歩

12月13日(月曜日)

日本橋七福神のコース選定の現地調査。

今日の歩行数1万4千歩

12月21日(火曜日)

赤塚史蹟を歩く会のスタッフと日本橋七福神巡りの実地調査。今日の歩行数1万4千歩

12月28日(火曜日)

赤塚史蹟を歩く会のスタッフと日本橋七福神巡りの資料印刷

平成17年

1月 7日(金曜日)

赤塚史蹟を歩く会の月例会「日本橋七福神巡りコース」A班実施。

1月12日(水曜日)

赤塚史蹟を歩く会の月例会「日本橋七福神巡りコース」B班実施。

私は勿論、スタッフ全員がボランティアであるが、みんな一様に楽しみながら活動して

いる。

スタッフの1人は「今まで一介の主婦だったが、私は今とても幸せです。好奇心を充たすことに楽しさを今、味わっています」と言ってくれた。私自身もこのボランティア活動を通して、充実感のある人生を味わっている。ボランティアとは他人のためにすることではなく、他人に役立つことで自分の幸せを味わうことだと実感してる。

私は、昭和20年4月1日、旧制本郷中学へ入学して、3日目に大空襲で校舎は全焼し周囲は一面焼け野原になった。その中で焼け残ったコンクリートを仕切っ

て授業を受けていた。

隣接する焼けた屋敷跡に大きな石像が幾つも残されていたのを何とも思わずに見ていたが、それが藤堂家の縁のものであったらしいと気付いたのは最近のことである。



# 築地市場探訪

新澤 米次（高八回）

去る二月二十四日、高8卒同級生四人、築地駅で午前八時待ち合わせた。サラリーマン、魚屋さんで賑わっていた。築地市場は昭和十年二月開場。約七万七千坪の敷地面積を有している。都内十一の中央卸売市場の「代名詞」となっている市場では鮮魚・野菜・果物を取り扱っている。開場当時は貨車で汐留駅経由で集荷された。今でも天井の高い駅舎がそのままの姿で残っている。現在では自動車輸送である。セリの始まりは午前四時四十分、鮮魚でスタート。塩干は五時四十分、促成・野菜は午前六時三十分より、一般野菜・果物は七時から一斉に始まる。我々都民の胃袋を満たしてくれる供給圏は都内だけでなく、関東近県に及んでいる。特に水産物については世界最大の取扱規模があり、外国人などもバスツアーで見学に来ている。国内外から入荷し、水産物で約四百五十種類、青果物

で約三百五十種類取扱っている。一日当りの取扱量は水産物で二千二百トン強、青果物で一千二百五十トン（平成十五年実績）だそう。一日当りの入場人員は約四万二千人、入場車輛数は一万九千台で、入荷から販売まで24時間連続して活動している。築地市場は日本橋から魚市場が移転し、開場して70年経過しており、施設の老朽化、狭隘化が著しく、計画では新市場は豊洲地区に移転、平成28年度をメドに進んでいる。取扱部門別に見ると水産物部門では全市場比88%台、青果物部門では17%台を占めている。若い人の好きな食肉市場は品川駅東口に有り、「芝浦」の通称で親しまれている。生花部門は世田谷、太田、板橋、北足立、葛西各市場で取り扱っている。我々四人は正門横詰所で長靴に履きかえ、広い市場内を約二時間かけて見て回った。築地市場協会に勤務している大野俊広さんの

案内で無駄なく、全体を見、理解することができた。寿しを食べ胃を満した半日であった。波除神社に参拝し、買い物をして家路に急いだ。



銀友第三十三号本文四〜五頁「本郷の先生たち 第三回 板倉勝高先生」平田満男氏（高七回）の文章を、初稿と決定稿を取り違え掲載してしまいました。此により、執筆者である平田氏に多大な御迷惑をお掛けしました事を、此処に深くお詫び申し上げます。決定稿は折を見て、改めて掲載させて頂きます。

# 学園だより

## ■平成十七年度入試結果

国公立大学は、東京大学（二）、東京工業大学（五）、東京医科歯科大学（二）、東北大学（二）、群馬大学（二）、筑波大学（一）、千葉大学（五）、首都大学東京（七）など、延べ五十二校であり、人数的には昨年度とほぼ同じような結果である。

私立大学は全体で七〇七校であり、人数的には昨年度とほぼ同じような結果である。早慶上智理科大については、早稲田大学（四十八）、慶応義塾大学（二十三）、上智大学（二十一）、東京理科大学（五十九）、延べ百五十一校で、昨年度から三割増である。いわゆるMARCGH+Gについては、明治大学（四十三）青山学院大学（二十三）、立教大学（四十二）、中央大学（四十五）、法政大学（二十四）、学習院大学（十八）、延べ

百九十五校で、昨年度から二割増である。

■指定校推薦制大学は、学習院大学（法）、立教大学（法）、中央大学（法・総合政策）、東京理科大学（理）、青山学院大学（理工）、明治大学（理工）、慶應義塾大学（理工）、早稲田大学（商・理工）その他合計二十五校合格

■国公立大学合格者五十二名

東京大学、東京工業大学、東京医科歯科大学、東北大学、群馬大学、筑波大学、千葉大学、首都大学東京、埼玉大学、電気通信大学、東京海洋大学、東京外国語大学、東京学芸大学その他

■私立大学合格者七百七名

成蹊大学、明治学院大学、日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学、獨協大学、芝浦工業大学、東京電機大学、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学、学習院大学その他

なお、合格者が重複しているが、その他多

数となっている。（平成17年4月20日現在判明分）

## ■平成十六年度（二〇〇四年度）

### クラブ活動状況

ラグビー部 16年度東京都春季大会ベスト4、第52回関東高校ラグビー大会Eブロック出場、第84回全国高校ラグビー大会東京都予選

サッカー部 新人戦 地区予選四回戦、伊豆長岡フェスティバル 優勝、総合体育大会支部予選 1位、総合体育大会都予選 1回戦、全国大会地区予選 1位、全国大会都予選 2次リーグ

剣道部 都春季大会兼関東大会予選 団体ベスト8 個人優勝、第51回関東大会 団体ベスト16 個人ベスト8、インターハイ 都予選 団体ベスト8 個人ベスト8、玉竜旗大会出場

スキー部 アルペン・関東大会・インターハイ出場、ノルディック・関東大会出場

# 同期の輪

## 青雲会（中11回）最後の会合

毎年11月上旬に昼食会を都内で続けてきた青雲会も老齢化に伴い85才前後の会員の中には腰痛をはじめ心臓・脳の病気で外出困難の人が増えている。今度33名の会員に案内状を出したところ15名の出席通知があり、去年11月13日銀座の三笠会館で最後の会合を開いた。

集まった人たちは流石に元気で当日欠席の2名を除いて定刻に会場に顔を揃えた。まず最近の逝去された方々に黙祷を捧げたあと、乾杯でまずは参会者の健祥を祈り開会した。約80%は毎年出席の常連で最初から打ちとけて夫々近況を語り、又亡き友の追憶を述べて本中時代を偲んでいた。

80代で今なお中国・韓国への海外

旅行に写真取材する者、元気で健康ゴルフを楽しむ人、ステンドグラス制作の趣味或いは俳句をたしなむ等々第二第三の人生を送っていて十代の若き頃本郷中学で鍛えられた健康な身体、健全な精神の有難さを痛感した次第である。

21世紀をになうべき後輩の本郷学園に学ぶ若人に大きな期待と責任の大きさを訴えたいのが我々先輩の希望でもある。

なお当日の出席者は、海津、木村、黒川、篠、高橋耕、塚田、中野、水谷、茂呂、八木、吉田、山岸、市川、の13名であった。（写真は三笠会館ロビーでのもの）

市川雄一





## 八十歳のつどい 中学十五回卒やすなこの会



10月23日、本駒込六丁目のプレゼザンにて、17名が80歳の顔をそろえた。

松田君の遺作展に寄って駆けつけた者もいる。

昔の同窓会のビデオを見て懐かしさのこみあげる、ひと時もあつた。

3分スピーチも感慨がこもる。体力、気力も衰えてきた。

同窓会について来年もやるか？各人の気持ちにまかせよう。

校歌も途切れがちであった。

奥平保正

## 高八卒（昭和31年度）同期会

2004年（平成16年）11月13日（土）午後3時から本郷学園

本館2階会議室で開催。参加者は14名。正門のシンボル銀杏並木の葉はまだ青く、我々の青春を彷彿するかのようを迎えてくれた。

第3回の会合は常連が中心で初参加は石井貴一さん一人。大変元気な顔を見せてくれた。連絡はとれたが、出席予定の人4人が

仕事の関係上、欠席となりました。お互いに顔と名前が一致し、やわらいだ

気分の話がはずんだ。幹事の皆さんも手分けして、案内表示や名札の確

認、お茶の配布と手際よく動き、時刻通り総会が始まった。総会の主旨、案

件の説明があり、学園の進学校になったニュースや後輩の活躍を話し、歴代

校長、理事長の写真を廻し見たり、各自の近況等活発な発言があり、会に対

する名案、珍案を出してもらいフリートークで進められた。まだ現役で

頑張っている人も数名いて、その前向きな姿勢に勇気づけられた。最後に皆



さんの意見は「片ひじはらずに、もっと多くの人々の参加が得られるような同窓会にしよう」という結論に達した。今回は平成17年11月を予定し、古稀を迎えるまで本郷学園会議室で行うことに決定した。二次会は巣鴨駅近くの三菱養和2階レストランパルテールで開催。遅れて参加した南谷さんの近況を聞き、特に新潟地震対策等を具体的に語ってもらい酒の肴にして酒豪家は満足して散会した。

新沢米次

## 板垣先生退官および 高麗大学語学留学壮行会兼同期会

2004年6月12日上野東天紅にて

平成16年6月12日(土) 上野・東天紅で、昭和47年3月卒業の同期有志10人が集まって、板垣先生の壮行会が盛大に行われた。板垣先生は本郷高校を2度目のご退職で、今後は、隣国である韓国に渡られて、韓国文化と韓国語の勉強に研鑽されます。

卒業して32年振りに会う人もいて、板垣先生より老けている人もいました。

各々、近況等を話して交友を深めました。板垣先生は、本郷高校に入られて担任したクラスの全ての教務手帳を40冊程お持ちになっ



田中 井上 野田 三浦 小島 板垣先生 吉田 八代 寺田 八代 中村 日高

ておられるそうです。参加した10人の出席番号・性格等的確に把握されていて参加者全員を驚かせました。また、板垣先生のバイタリティー豊かな話し方は32年前と少しも変わららず、益々お若くなる様子です。また、機会があればこの様な会を開催したいと思いますが、板垣先生の帰国されるのは2年後です。その時には、帰国報告会を開催し

て、今回より一人でも多くの同期に参加して頂きたいと思います。それではお元気で頑張ってらっしゃい。板垣先生のご無事を祈念申し上げます。

野田君の肝いりで、今回の同期会が、32年ぶりに開催されました。昭和47年3月卒業(高24回) 過去クラス会は、開催していますが、今後、同期が集うように次回は楽しみにしています。

野田悠二



平成16年12月  
高24回3年4組忘年会・クラス会

石原 相島 中村 寺田 八代 田中

# クラブOB会

## 硬式野球部OB会

染井クラブ役員の若返りを図る

染井クラブ（会員数407名）では平成16年6月20日定期総会を学園内60年館ホールで行い役員改選と今後の活動方針が検討されました。現会長渡辺武男氏（高校4回）の辞任に伴い長洲守（高校20回）が次期会長に推薦され満場一致で可決され染井クラブ4代目の会長に就任致しました。今回の総会では硬式野球部の現状、グラウンドの問題（現在グラウンドがない為週に1回程度荒川の河川敷で練習している）生徒の意識（高校球児として何を目標にしているのか）などが話題に出ましたが、本校に限らずグラウンドのない野球部の生徒全般に言える事はブランド化（高校のネームの入ったバックを下げて通学するだけで満足している生徒）が本校にもあるよ

うだ。など活発な意見が話されました。本郷高校硬式野球部は夏の選手権東京都大会で9年間負け続けています。今回は是非一回戦突破に向けて頑張つて欲しい、この願いが総会参加者全員の思いで総会を閉会いたしました。

染井クラブ親睦会開かれる

11月14日三菱養和会レストランパルテールにて親睦会が行われました。話題はやはり母校野球部の現状が中心です。夏季合宿（8/2～8/8）の報告が行われ大学生のOBが連日合宿に参加した様子。また、昭和44年の都市対抗野球で電電関東（現NTT）で優勝監督になった藤巻健三氏（高校8回）が7、8日の両日合宿に参加し熱心に指導された事などが報告されました。やはり最後の二日間は生徒の目つきが変わっていたと顧問の先生も話しておられました。新人戦は一回戦突破二回戦惜しくも敗退、来年に期待をこめて！親睦会は更に盛り上がりました。この仲

間は野球の話題を肴に酒を飲むのが一番楽しいひと時を過ごせる連中のようなようです。

関塚正治（高20回）



## スキー部紹介

創部30周年記念式典2002年10月6日(日)に本校内50周年記念館において前顧問の沢辺利夫先生・三好修先生・新顧問の佐々木隆太先生そして創部以来合宿でお世話になっている民宿の小林ご夫婦をお招きして開催しました。

札幌冬季オリンピックが、開催された1972年4月、高校2年生有志で、スキー同好会を創部したの



が、第一歩の踏み出し、新OBの30期まで、約200名、脈々と活動を続けています。

現役スキー部合宿の技術指導者派遣、春合宿における卒業生(新OB)の歓迎会、OB杯争奪スキー大会、現役員との顔合わせやOBとの親睦会を行っています。また、必要に応じてスキー部への援助を主な活動目的としています。

スキー部OB会会長 立入健司(高26回)

## 本郷岳友会プロフィール

戦後の山岳部のスタートは昭和24年(1949)、戦前、戦中は「スキー山岳部」、「行軍部」等と称した時期もあったと聞いています。

山岳部のOB会が「本郷岳友会」として発足したのは昭和39年4月(1964)で、豊島区役所の隣にある豊島振興会館で発足式が行われました。

その前年の昭和38年に、初めての卒業祝賀会を巣鴨「三菱養和会」で行われましたが、

これがOB会設立のきっかけになったようです。この行事は「追出しコンパ」として現在も賑やかに続いています。

昭和49年(1974)にアラスカ・マッキンリー峰に遠征隊を送りましたが、これには当時の松平頼明校長先生、学校、同窓会諸兄の強力な御協力がありました。

これを契機には以後は多数の会員が、アンデス、ヒマラヤ、ヨーロッパアルプス等々へ出掛けるようになりました。

社会人山岳部の中で、高校山岳部OB会として異色の活動を行ってきましたが、近年はハードな登山活動より会員相互の親睦に重点が移っています。

平成10年には念願のOB会の山小屋「本郷岳友山荘」を南アルプス・甲斐駒ヶ岳の山に建



昨年秋の定例会参加者(11月7日)



設する事ができました。

計画立案、土地入手、建設と、1年強の期間を要しました。

実際の建設期間は約6ヶ月でしたが、会員自身が休暇を利用して建設したものです。

今後も高校生諸君の応援とOB会の親睦活動が続いて行くものと思います。

OB会連絡先：押田松児（高22回）  
〒114-0005東京都北区栄町26-9

## 籠球部OBの集い開催

平成12年の邂逅以来毎年続けてきた学園籠球部OBの集いも今年（平成16年）で5年連続の開催となった。この間各人が確実に5歳の齢を経た訳であるが出席者の全員が65才超の年齢にしては矍鑠たる姿で顔を揃えられるのは青春時代にバスケットボールで培った心身鍛練の賜物であろうか。互いの健在を喜び合う会話は毎年のことであるが、特に今年の話題の盛り上がりは我等がバスケット仲間の山内英夫氏（高3回卒）が母校の同窓会会長に就任されたことである。吾々が在学当時の学園の校風は体育会系の気運傾向であった中で、山内氏は3年生になっても部活を止めることなく全部員と共にボールが見えなくなるまで練習に取り組みながらも学業に励み、見事東京大学への難関を突破されたことは正に文武両道教育の鑑であり、我等バスケマンの誇りとするところである。学園同窓会に於ける山内氏の今後の活躍に期待をすると共に、現役諸

君に於いても如様に立派な先輩が同窓会長に居られることを心の励みとして勉学に部活に一層の精進を願うものである。

角能良宣（高8回）



# 文化祭報告



今年の文化祭ゲート



グランド風景



中庭風景



同窓会ブース





### 同窓会サロン

平成16年本郷学園文化祭のテーマは『一騎当千』。巣鴨口には城門をイメージした大きなゲートが設置されました。

9月25日・26日の2日間に亘り開催された文化祭。本郷を見学に来た小中学生とその父兄、本郷学園卒業生、巣鴨近辺の女子校生など多くの方が来校し、盛況なイベントとなりました。

同窓会ブースは63号館3階の教室。卒業アルバム、卒業生の著書、古い写真などの同窓会員寄贈の資料等の展示を行い、コーヒー・お茶、お菓子等のサービスも例年通り行いました。

比較的に目立ちにくい場所と言うこともあり、訪れるのは卒業生がほとんど。何人か在校生の父母の方もいらつしゃいました。

文化祭で印象に残ったのは、母校を訪れる卒業生の多さでした。職員室や各教科の準備室は近年の卒業生で混雑し、話している最中にも次々と教え子が訪れてくる状況。多くの同級生とも再会することができ、たいへん盛

り上がった文化祭となりました。

同窓会の皆様、学校の皆様、在校生の皆様、本当に御協力ありがとうございました。今後文化祭への出展を続けていきたいと思っておりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

また、初の試みとして、2日目に近くの三菱養和会「レストランパルテール」に、同窓会サロンを設置。立食形式で食事やアルコール類を提供し、堅苦しい挨拶抜きで各回同窓会員が交友を深めました。十七年も継続して行います。

今年の文化祭は9月23日～24日に開催されます。

下関秀之（高50回）

# 平成十六年度定期総会報告

平成十六年六月十九日午後三時より

於 本郷学園二階会議室



平成16年度同窓会定期総会が6月19日午後3時から学園会議室で司会関塚副会長（高校20回）より開会宣言され、同窓会員出席者29名で開催された。

開催にあたり、高橋雄校長より学校の現況についての説明があった。現在学校授業等はすべて生徒が主体性を持ち、自主的に行動、活動を行っている。学業等は受動的であるがそのことが学校側としては学ぶ喜びを後押ししている。目標等を持ち、目指し、達成する喜びを教育として推し進めている。昔の本郷に戻る、そのことが教育の基本と信じ、努力すると熱く語られた。

総会に入る前に平成15年度の物故者に対し全員起立の上で黙祷が捧げられた。この後議

長選出が行われ新会長の山内英夫会長（高校3回）が選出された。書記には平野隆之理事が（高校26回）選出され議事に入る。

## 第1号議案

平成15年度事業報告は秋元副会長（高校7回）より銀友33号24ページ参照の上詳細に説明され了承された。

## 第2号議案

平成15年度一般会計報告は寺田副会長（高校24回）から銀友33号24ページ参照の上詳細に説明され了承された。

## 第3号議案

平成15年度会計監査報告は高田隆義（高校15回）により厳正に検査の結果適正に処理されていたとの説明があり了承された。

## 第4号議案

平成16年度事業計画案は秋元副会長により





山内会長 高3回



高橋校長挨拶

説明された。

内容としては、今回は秋の同窓会において同窓生の懇親の場を設けることを検討中であり、今までとまた違ったふれあいの場を提供したいとの説明がありました承された。

### 第5号議案

平成16年度会計予算案は銀友33号25ページに基づく寺田副会長の説明で了承された。

### 第6号議案

平成16年度事業として活性化について望月



司会 関塚理事 高20回



総会

副会長（高3回）よりアンケート等を取り活動の動向を調査したいとの報告があり。銀友、ホームページ各事業計画案については、田中副会長（高24回）より報告。また、同窓会誌（銀友）のメンバーに玉川副会長（中19回）および平野（高校27回）副会長に参加してもらう旨、報告があり、又、同窓会誌およびホームページは、学園や同窓会員皆さんの情報提供が不可欠であるので、協力をお願いする旨、要請がなされた。

以上で平成16年度総会の全議題が終了した



懇親会

旨の議長報告で閉会した。  
その後会場を三菱養和会内レストランパルティールに移して懇親会とした。

平野隆之（高26回）

## 平成 16 年度事業報告

自・平成 16 年 4 月 1 日 至・平成 17 年 3 月 31 日

	(平成十六年)		(平成十七年)
	四月 七日	高校・中学入学式(会長・副会長出席)	
	四月 十七日	理事会・懇親会(本校会議室)	
	五月 十五日	運営委員会(同窓会資料室)	
	五月 下旬	銀友発送	
	六月 十九日	定期総会・懇親会(本校会議室・養和会)	
	七月 十七日	運営委員会(同窓会資料室)	
	九月 十一日	文化祭出展準備(同窓会資料室)	
	九月 十八日		
	九月 二十五日	文化祭出展・サロン(同窓会ブース・養和会)	
	九月 二十六日		
	十月 十六日	運営委員会(同窓会資料室)	
	十一月 二十日	運営委員会(同窓会資料室)	
	十一月 二十六日	学園幹部との交流会(駒込)	
	十二月 十八日	運営委員会(同窓会資料室・泰平飯店)	
	(平成十七年)		
	一月 十五日	理事会・新年会(本校会議室・養和会)	
	二月 十九日	運営委員会(同窓会資料室)	
	三月 十五日	高校卒業式(会長・副会長出席)	
	三月 十九日	中学卒業式(会長・副会長出席)	
	三月 十九日	運営委員会(同窓会資料室)	

## 平成 16 年度決算書

自・平成 16 年 4 月 1 日 至・平成 17 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	5,607,455	卒業生記念品費	137,900
会費(1,152名)	2,859,000	文化祭出展費	173,276
入会金(平成16年度324名)	972,000	印刷費(一般)	44,092
受取利息	119	印刷費(銀友)	1,217,559
雑収入	1,548	発送費(銀友)	988,255
		発送手数料(銀友)	115,953
		通信費(H P 含む)	164,119
		名簿管理保守費	312,197
		事務消耗品費	15,972
		会費郵便振替手数料	80,640
		振込手数料	2,362
		予備費	40,000
		次年度繰越金	6,147,797
合計	9,440,122	合計	9,440,122

### 預金明細

現金	24,876		
郵便貯金	4,195,458	本郷学園同窓会	会長 山内英夫
振替預金	99,150	本郷学園同窓会	会計 寺田正美
東京三菱普通預金	1,828,313	本郷学園同窓会	監事 篠喜三郎
合計	6,147,797	本郷学園同窓会	監事 高田隆義

## 平成 17 年度事業計画

自・平成 17 年 4 月 1 日 至・平成 18 年 3 月 31 日

〔平成十七年〕	
四月 七日	高校・中学入学式（会長・副会長出席）
四月 十六日	理事会・懇親会（本校会議室・養和会）
五月 二十一日	運営委員会（同窓会資料室）
五月 下旬	銀友発送
六月 十八日	定期総会・懇親会（本校会議室・養和会）
七月 十六日	運営委員会（同窓会資料室）
九月 十 日	文化祭出展準備（同窓会資料室）
九月 十七 日	文化祭・サロン（同窓会ブース・養和会）
九月 二十三 日	文化祭・サロン（同窓会ブース・養和会）
九月 二十四 日	文化祭・サロン（同窓会ブース・養和会）
十月 十五日	運営委員会（同窓会資料室）
十一月 中旬	懇親旅行会（場所・未定）
十一月 下旬	学園幹部との交流会
十二月 十七 日	運営委員会（同窓会資料室）
〔平成十八年〕	
一月 二十一日	理事会・新年会（本校会議室・養和会）
二月 十八日	運営委員会（同窓会資料室）
三月 十五日	高校卒業式（会長・副会長出席）
三月 十八日	運営委員会（同窓会資料室）
三月 二十日	中学卒業式（会長・副会長出席）

## 平成 17 年度予算案

自・平成 17 年 4 月 1 日 至・平成 18 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	6,147,797	卒業生記念品費	200,000
会費（1,500名）	3,000,000	文化祭出展費	50,000
入会金（平成17年度270名）	810,000	文化祭サロン費	120,000
受取利息	220	印刷費（一般）	50,000
		印刷費（銀友）	1,300,000
		発送費（銀友）	1,000,000
		発送手数料（銀友）	120,000
		銀友編集取材費	30,000
		通信費（HPプロバイダー）	45,000
		通信費（一般）	80,000
		名簿管理保守費	200,000
		事務消耗品費	10,000
		会費郵便振替手数料	105,000
		振込手数料	3,000
		対学校交流会費	50,000
		運営委員会交通費補助	150,000
		予備費	100,000
		次年度繰越金	6,345,017
合計	9,958,017	合計	9,958,017

# 本郷学園同窓会会則

## 第一章 名称及び位置

### 《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会という。

### 《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号本郷学園内に置く。

## 第二章 目的

### 《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

### 《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。  
会員の親睦会の開催、会誌の発行、母校の後援、名簿の整備、ホームページの管理等。

## 第三章 組織・役員

### 《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

会員は、母校卒業者及び母校に在籍した者で理事会の承諾を得た者とする。

### 《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

名誉会長 一名、顧問 若干名、相談役 若干名、会長 一名、副会長 若干名、理事 各回期一乃三名 監事 二名

### 《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

名誉会長は本郷学園理事長を推薦する。  
顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに会長経験者を推薦する。  
相談役は副会長・理事・監事の経験者で会長の委嘱により推薦する。  
会長は理事会において理事の互選により選出する。

副会長は理事中から会長の委嘱によって

定める。

理事は、各回期から選出し総会の承認を得るものとする。但し選出のない回期からの理事は一名を会長が委嘱し総会の承認を得るものとする。

監事は、会員中から選出し総会の承認を得るものとする。

### 《役員職務》

第八条 役員は次の職務を行う。

会長は会を代表して会務を総括執行する。

副会長は会長を補佐し会長事故あるときは副会長間において定める順位により会長事務を代行する。

理事は、理事会に出席して、本会の運営に参画する。

監事は会計を監査する。  
顧問・相談役は会長の要請により会議に出席する。

### 《役員任期》

第九条 役員任期は三年とする。

## 第四章 会議

### 《会議》

第十条 本会の行う会議は、総会、理事会、運営委員会とする。

会議の議長は、会長が指名する。

### 《総会》

第十一条 総会は本会の最高議決機関とする。

定期総会は毎年六月に開催し会務報告、役員承認、会則改正その他本会に関する重要事項を審議する。

会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

### 《理事会》

第十二条 理事会は理事により構成し理事の過半数の請求、もしくは会長の要請により開催し本会に関する一般事項を審議する。

### 《運営委員会》

### 第十三条

一項 運営委員会は、会長、副会長及び本会の事業を担務する理事で構成し、会長の召集によって開催、本会の運営にあたる。

二項 運営委員会に副会長中より会長の委嘱によって事務局長一名をおく。

### 第五章 事業及び議決

### 《事業の遂行》

第十四条 理事は担務を定めて会誌の発行、企画、会計、庶務その他の事業を行う。

第十五条 理事会において立案された本会の事業は総会の議決を経るものとする。但し、急を要する場合は理事会において処理するものとし、総会の承認を得るものとする。

### 《議決》

第十六条 会員は総会において発言権、議決権を有し、総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長が決める。

### 第六章 会計

### 《事業年度》

第十七条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌三月三十一日に終わる。

### 《会計》

第十八条 本会の経費及び事業資金は入会金及び会員の年会費並びに寄付金その他を以てこれに充当する。

一旦納入した金品は一切返還しない。

第十九条 本会の収支決算は毎年総会に於いてこれを報告、承認を得るものとする。

第二十条 会員は年会費を一口金弍千円として一口以上を毎年納付するものとする。卒業時の入会金は参千円とする。

### 第七章

第二十一条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正する事ができる。

### 付則

本会則は平成十五年六月二十一日より施行する。  
以上

# 本郷学園同窓会会費納入者一覽

平成十七年三月三十一日現在

中2回	栗山 巍、野中 敬一、岡田 孝一	中13回	中村 允、永田 三郎、黒鳥 四朗、阿部敏一郎	大野 肇、尾前 広、垣 喜一郎、亀岡 周
中3回	安藤 正二、泉津井 玄、忍田 太郎、高市 章	石原 清助、石川 正達、太田 恭二、久保 秀朗	佐藤 元徳、斉田 貢一、下村多気夫、清水 英夫	
	高松 鶴吉、野本 三千雄	鈴木 和男、橋 正道、高橋 正、寺門 務	関谷 昭、高野 正美、田中 章治、田中 稔	
中4回	伊藤 英治、亀甲 勲、杉本 金馬、長沢 誠	三澤 義人、村上 忠之、山口 一弘	田中 裕一、立山 文男、千葉 孝男、塚本 直人	
中5回	石井 千里、井上 久男、高山 三郎	宮崎 卓郎、石川 芳正、奥田 富雄、大塚 和彦	土屋 二郎、寺口有喜公、中山 茂、星野 実	
中6回	四谷 輝久、大和 禎人、佐原雄次郎、秀鳥 辰弥	尾立 維久、加藤 健造、佐藤 三良、柴崎甲子夫	保坂 忠夫、益田 泰彦、松谷 正、町田 滋	
	堀江 勇治、山本 秀明	鈴木 一郎、多賀 一郎、西村 博、藤井 繁太	森 宏、蔵 清平	
中7回	秋元 庄司、大原 泰治、東風谷秀雄、佐藤 忠夫	藤井 稔、堀江 仲美、宮崎 和哉、森本 三郎	松本 純治、間野 芳夫、中山 正、愛 利三	
中8回	鈴木 貞夫、園部 三郎、長嶺金次郎、川崎 昌夫	大河原由雄、阿部 敏秋、新井 文一、奥平 保正	雨宮 昭二、新井 義雄、新井 保文、青戸 将	
	浅井 美雄、石坂 岩雄、瀬戸 正弘、谷崎 丈夫	荻原 久雄、河原 燦、勝 敬二、栗原 重雄	青木 益嘉、伊藤 晃二、磯川 清和、磯野 泰夫	
	竹田 亨、湯原 監	工藤 幸雄、近藤 巍、蛭合 邦夫、島田 克敏	岩崎 昭、五十嵐 宏、今里 隆、石田 順嗣	
中9回	徳田喜一郎、有村 純臣、鶴木 諄、小沢 秀義	鈴木 利一、高橋 幸雄、高沢 俊、土屋 健人	植田 茂、榎本 輯次、岡田 光正、大原 功	
	大塚秀太郎、五味 重春、佐々木岸太郎、長島照雄	中山 甲一、中西 弘毅、中村 美登、根本 卓光	大澤 清、大沢 善和、蒲生 勇三、金子佐多美	
	吉原 晴夫、吉成 久志	野村 秀二、萩原 友郎、畑 定、松本 八郎	菊地 照夫、北村廣三郎、北堀 幸雄、栗山 春雄	
中10回	毛利 正利、伊藤 龍昭、飯田 博通、大塚 信男	宮森 清久、吉本 幸雄、山口 富三、吉井 和夫	駒井 嘉直、後藤 良一、佐々木一昭、志田 芳久	
	尾城 正一、久住 進一、後藤 恒久、小泉 進	吉松 茂弥、吉田 幸之輔、渡辺 大乘	清水 正美、菅野 英夫、菅野 武司、鈴木 卓三	
中11回	鈴木 勝美、永井 吉男、中川 統一、市川 雄一	木村 宮造、伊藤 篤行、大沢 欽一、大津 泰三	瀬川 昌男、妹尾 尚、高橋 三郎、高橋 操六	
	山岸 勝美、高橋 耕一、青野 廉、市川 雄一	加瀬 量次、菊地 宏、木村 康夫、小永井 暹	高橋 直林、田中 健一、土屋 恭一、鳥飼 義二	
	上田 義雄、太田 芳蔵、尾川 勝助、黒川 興文	白井 明、高橋 璋守、高野 透、竹野 保之	藤堂 正彰、富山 栄、豊崎 益夫、友安 昭治	
	近藤 要、関口 二郎、塚田 芳雄、中野 武正	田中 凡夫、近澤 勝利、野尻 利祐、羽根孝太郎	西野 重義、中山 守次、仲摩 邦夫、野本 昭	
	長妻 義鑑、水谷 郁夫、八杉 繁、吉田 大象	原 栄蔵、樋代 幸雄、藤田 洋一、森 恭久	長谷川忠也、馬場 隆、服部星之助、服部 定善	
中12回	由井洋四郎、新井 洗、今井田 貢、石原 豊英	和田 節	檜垣 順次、細井 孝、菩提寺悦郎、松永 昭二	
	河北 展生、楠本善一郎、後藤 嘉徳、坂口 甫	鈴木 隆、角折 幸輝、村松 達夫、秋田 禮一	松廣 翠、松田 裕、松島 寿夫、前田 和男	
	中村 秀之、前田 晴久、山田 英彌、吉田 正吾	野瀬田脰生、阿出川昭治、按田仁三郎、伊藤 三郎	水原 奎一、村野 桂三、森 正徳、森本 肇	
	和気 秀夫、小松 昭、高貫 繕晴	乙部 邦壽、小川 清、小倉 高規、大村 雅通	山田 卓治、吉田 重雄、渡部 豊一、渡辺 信夫	

中19回 滝田 智久、板橋 金藏、佐藤 輝義、重永 政夫

鈴木 司郎、保谷 六郎、大久保武司、山崎 達司

新井 忠彦、石井 博夫、岡田 貢一、太田 健三

大野 勝弘、貝塚 明雄、管 文男、柏原 英一

菊田 勇、曾川三千昭、玉川 昭、高橋 實

高橋 昭彌、竹本 三男、西村 努、長谷川広司

増田 速水、室久敏三郎、山本 巖、藥 尚

横田 文男

大塚 康夫、市川 恒雄、大屋 忠、金澤 一朗

倉田桂二郎、島田 正夫、田島 利男、対馬 誠也

鶴岡 俊雄、土肥 隆、中島敬太郎、羽山 健児

橋本 公成、久永 幸隆、藤林 晃、皆川 敬次

山下 保次、横山 盛、市川 保、菊入喜三郎

藤原 利彦、吉原 信幸

根本 幹弘、中林 商藏、阿知波 健、井上 宏之

板倉 厚、大下 晃、大矢 和夫、古門 敏郎

小林 國雄、新澤 良孝、田村 義雄、田中 一好

二宮 重恒、古澤 秀信、藤田 隆、星野 昌弘

持田 耕一、横澤 邦彦、小沼 一雄

井筒 千秋、田中 昭二、永井 道夫、伊藤 文二

加藤 昇、坂本 庄司、高田 政雄、田島 達策

中原 豪彦、福沢 昇

相川 厚、種田 邦彦、外内 悦雄

坂野 重一、桜井 磯雄、櫻井 泰、稲田 稔

清水真太郎、瀬川 澄男、高橋東洋一、豊嶋 敬司

中村 嘉宏、西島 成一、羽生 銈佑、浜野 清隆

廣瀬 六郎、小林 明

高3回 地曳 秀雄、吉田 孝光、秋間 政、奥平 博一

大槻 一雄、佐々木三郎、齊藤 邦衛、中島正次郎

長崎 一、平子 浅雄、松本 繁、山口 洋司

山内 英夫、渡辺 五郎、石川 達夫、石塚 豊

植松 隆吉、内田 周一、北見 尹、志野原三津夫

合田 平、小平 光郎、小林 敏朗、坂田 実

千田 昇、根本 強、広瀬 末治、前田 善男

光安 伸夫、村西 信雄、望月 敏郎

岩瀬 禎成、西江 峰夫、八嶋 政臣、渡辺 武男

佐々木直剛、廣瀬 澄

島崎 雄司、梶野 伸二、宮坂 貢司、井沢 清

市村 近、関口 叔軌、中林 忠昭

霜越 信、丸橋 修、稲垣 泰輔、関 計一郎

吉田 和雄、久保田義喜、田中 登、伊藤洋之助

岩崎 雄藏、石井 延彦、池内 春俊、飯泉 嘉也

内田 孝二、奥村 茂、小形 祐一、小椋 一

小野 耕一、勝野 恵之、川窪 国明、栗原廣太郎

小林 金則、小林 秀行、佐々木啓之、佐瀬 友貞

篠 喜三郎、鈴木惣一郎、仙波 忠志、高橋民次郎

高木 桂三、津久田愛之助、中山 寿夫、中村 義一

根立 光夫、平川 明雄、松本 易夫、松本 幸司

前田 明男、渡辺 勝、渡辺 昭義、香森 哲也

市川錦次郎、風間 幹雄

島崎 幸人、豊嶋 宏、秋元 幹夫、青木 輝男

井島佳二郎、平田 満男、益川 雄治、山内 周

矢田 明二

南谷 修、内村 光孝、榎本 正夫、海老原 博

大野 俊広、角能 良宣、金子 隆一、木塚 順夫

高8回 小室 能広、新澤 米次、勅使河原宏記、中野 修

長澤 秀幸、藤卷 健三、吉田 光男、渡邊 衛

渡邊 茂明

島村 泰夫、芥川 定義、江原森太郎、田辺 博昭

川崎 孝、西江 正晴、比企 正憲

青木 弘三、井上栄三郎、岡本 信也、小川 紘

小島 友宏、津原 巖、塚原 静夫、中河 秀行

林田 有弘、茂出木義雄、山崎 昇、八木橋 実

渡部 長幸

岩田 成弘、辻 秀夫、會田 光雄、太田 善夫

小池 弘祐、東平 正司

大槻 勝英、市倉 洋一、亀井 忠雄、久保 国男

熊木 宏治、竹村 義教

阿出川信夫、越路 往輝、杉本 繁、明石 安邦

安達 義道、相川 清、岡田 勲、加毛 隆

方波見 茂、斎藤 毅、篠田 彬、島村 正雄

中村 久、渡辺 則綱

池田 雅彦、芦原 健一

新 安雄、斉藤 眞、杉山 雅一、高田 隆義

森坂 展行

荒川 敏郎、小野寺良雄、小出 邦敏、辻内 健志

三浦 明

坂田 周二、小松 良栄、石井 裕、板倉日出男

小倉 義雄、子田 保、榊原 康夫、丹波信三郎

田原 克人、中川 寛、根本 輝久、鷺田 健治

北原 照久、有馬壮一郎、石原 崇光、鷺田 守利

木下 茂男、沼尻 卓、長谷川 実、平田 治久

高20回 我妻 光久、後藤 文雄、小林 基展、佐々木正紀

高28回	高27回	高26回	高25回	高24回	高23回	高22回	高21回	高20回	高19回	高18回	高17回	高16回	高15回	高14回	高13回	高12回	高11回	高10回	高9回	高8回	高7回	高6回	高5回	高4回	高3回	高2回	高1回																															
加藤好男、上谷内純一、黒沢邦夫、須藤博忠	鈴木利一、高橋勲、金子一清、井口隆、岡野智彦	稲田俊和、岩崎晶、庭野毅、平野隆之、伊藤博之	小倉良夫、栗山孝治、坂井成一、三瓶実	若狭伸次	池野直樹、小国信男、太田治、高橋一夫	瀬賀春雄、遠藤達哉、岡村光雄、大恵淑行	山口陽通	矢代順一、良川眞	菅原義則、田中実、松井伸彦、山本和弘	清水伸樹、上原孝治、矢嶋実、金子純一郎	城和夫、杉本佳生、藤平克彦	松本圭一、中上玄文	山田晴一、川人英生、龟田洋三、田邊賢一	諸石貴生、鈴木徹、印東信、清水哲也	永山哲也、西洋一、吉田秀樹	石原剛次、横田浩志、小池治、斎藤政嗣	宮本茂治、榎本隆廣、川崎雅弘	飯泉彰裕、大久保実、小林清美、丹野修辞	菅野弘一、鳥幸男、安住高弘、石塚実	大野秀樹、中尾政則、櫻井智佳大	佐藤秀行、石本厚順、北條泰秀、大森直樹	岡村史士、鈴木拓也、廣瀬理、吉本光博	土田賢一、濱田透、山口和彦、横川高樹	松本圭一、中上玄文	山田晴一、川人英生、龟田洋三、田邊賢一	藤本由紀夫、坂宮栄一、平野治、丸橋英正	平澤淳、金子泰久、川人康成、宮崎雄一	宇賀神茂、斎藤卓、鈴木英雄、戸谷庸克	磯田浩之、高橋秀明、浅賀宏昭、岩田実	滝本学、萩原良文、福島浩、天沼嘉章	竹内雅一、永堀義秀、山崎伸二	羽毛田孝之、山畑邦裕、厩溪文有、佐藤修一	石坪英貴、富永浩伸、中村貢司、吉田法夫	渡辺嘉伸	吉松耕司	河越太郎、齊藤哲也、横田寛、小掛慎太郎	千頭井晃一、富沢信夫、紙谷淳一、大久保泰	長田祐司、高瀬知博、細田昌孝、井上貴行	井原宣孝、長谷川忠生、浅野利治	藤井亨、飯田光彦、山本篤広、花田憲彦	齋川俊行、本井利生、有澤知彦、三村淳悟	大槻貴広、東尾隆之、吉川秀一、大澤清	桜間一彰、藤田惠輔、橋本武治、石本健太郎	齊田尚彦、塩家吹雪、澁屋史明	上原弘行、清水秀樹、渋谷敏夫、萩原孝明	古賀淳也、小林義明、伊藤正規、内山史雄	遠藤大仁、松本祐一、中田一郎、針谷寿紀	吉田永弘、中村步希、山野邊康史、中村剛	工藤順一、北村拓栄	津田達也、野村彰浩、五十嵐靖、久保村豊	丹波宏崇、利根川昌紀、加藤立、浅野裕之	栃木隆之、芦原健雄、渡邊卓也、青木裕光	中山秀一、阿部憲太郎、青木和久、中島信之	岡田浩典、針田敏勝、平野大介、下村大樹	渡邊信貴、柴崎直樹、小曾根友和、金子隆	北澤卓弥、山田洋一、涌井嘉人、荒井昌之	村井秀行	北原宏晃、須原秀人、大森慎太郎、柳瀬崇博
酒井孝一、関塚正治、戸張友晴、西原薫	野水順一、古庄英明、町田準一、山口和	黒杉寿博、荒井章登、岩越政美、加藤健二	阿部益美、清田健蔵、田島秀行、中田宗喜	上野明啓、寺田正美、石原涉、掛川敏行	池野直樹、小国信男、太田治、高橋一夫	瀬賀春雄、遠藤達哉、岡村光雄、大恵淑行	山口陽通	矢代順一、良川眞	菅原義則、田中実、松井伸彦、山本和弘	清水伸樹、上原孝治、矢嶋実、金子純一郎	城和夫、杉本佳生、藤平克彦	松本圭一、中上玄文	山田晴一、川人英生、龟田洋三、田邊賢一	諸石貴生、鈴木徹、印東信、清水哲也	永山哲也、西洋一、吉田秀樹	石原剛次、横田浩志、小池治、斎藤政嗣	宮本茂治、榎本隆廣、川崎雅弘	飯泉彰裕、大久保実、小林清美、丹野修辞	菅野弘一、鳥幸男、安住高弘、石塚実	大野秀樹、中尾政則、櫻井智佳大	佐藤秀行、石本厚順、北條泰秀、大森直樹	岡村史士、鈴木拓也、廣瀬理、吉本光博	土田賢一、濱田透、山口和彦、横川高樹	松本圭一、中上玄文	山田晴一、川人英生、龟田洋三、田邊賢一	藤本由紀夫、坂宮栄一、平野治、丸橋英正	平澤淳、金子泰久、川人康成、宮崎雄一	宇賀神茂、斎藤卓、鈴木英雄、戸谷庸克	磯田浩之、高橋秀明、浅賀宏昭、岩田実	滝本学、萩原良文、福島浩、天沼嘉章	竹内雅一、永堀義秀、山崎伸二	羽毛田孝之、山畑邦裕、厩溪文有、佐藤修一	石坪英貴、富永浩伸、中村貢司、吉田法夫	渡辺嘉伸	吉松耕司	河越太郎、齊藤哲也、横田寛、小掛慎太郎	千頭井晃一、富沢信夫、紙谷淳一、大久保泰	長田祐司、高瀬知博、細田昌孝、井上貴行	井原宣孝、長谷川忠生、浅野利治	藤井亨、飯田光彦、山本篤広、花田憲彦	齋川俊行、本井利生、有澤知彦、三村淳悟	大槻貴広、東尾隆之、吉川秀一、大澤清	桜間一彰、藤田惠輔、橋本武治、石本健太郎	齊田尚彦、塩家吹雪、澁屋史明	上原弘行、清水秀樹、渋谷敏夫、萩原孝明	古賀淳也、小林義明、伊藤正規、内山史雄	遠藤大仁、松本祐一、中田一郎、針谷寿紀	吉田永弘、中村步希、山野邊康史、中村剛	工藤順一、北村拓栄	津田達也、野村彰浩、五十嵐靖、久保村豊	丹波宏崇、利根川昌紀、加藤立、浅野裕之	栃木隆之、芦原健雄、渡邊卓也、青木裕光	中山秀一、阿部憲太郎、青木和久、中島信之	岡田浩典、針田敏勝、平野大介、下村大樹	渡邊信貴、柴崎直樹、小曾根友和、金子隆	北澤卓弥、山田洋一、涌井嘉人、荒井昌之	村井秀行	北原宏晃、須原秀人、大森慎太郎、柳瀬崇博



北岡 竜行、齊藤 伸之、今氏 照樹、柳沢 明思	高53回	内原 嘉昭、内田 修介、藤平 紘和、北島 康介
関根 傑紀		渡邊 昌一、今井 秀星、田中 宏明、長橋 智久
稲生雄一郎、山中 弘毅、川島 昌弘、高橋 圭祐		吉田 朋大、江川 勝久、栗山 孝幸、中井 秀昌
橋本 直人、上田 隆祐、佐藤 勝、徳永 理利		福森 洋輔、山浦 太一、齊藤 秀雄、長南 基
中村 織雄、増田 健次、芦原 康夫、小宮 秀介		鬼倉 宏天、小島 将敬、田中 義人、鶴岡 廣哉
堀 洋平、鎌田 敬介、町田 健、増田 望		安達 広幸、寛 真一、柴田健太郎、中村 旭
高49回		日谷 莢、高辻 紘之、福田 章吾、宮部 皓太
林 誠吾、安井 督、上野 光信、小澤 正		長島 克弥、丸山 大輔、高山 敬大、山崎 雅弘
坂上 聡志、中溝 健晴、近藤 大介、山田 元文		香積 知明、佐藤 達哉、高波 佑介
高50回		千葉植太郎、浦野 哲也、糸川 拓真、杉山 洋樹
網島 宗介、清水 貴寛、小林 悟、塚脇 英典		五代 隆史、桜井 俊輔、柳 宗明、外山 雄平
境野 稔浩、下関 秀之、井手 祐介、塚村 有希		齊藤 隆一、小泉 信吾、鈴木 幸大、栗野 耕平
乾 嘉宏、櫻井 隆弥、鬼倉 一展、瀧川 道生		石澤 慧、平山 智貴、山下 泰之、吉澤順一郎
松本 恭一、宮崎 竹馬、浅野 良太、財津 宜史		小谷 泰介、高橋 祐磨、中島 丈博、小田 敦史
新村 光央		岸 武史、永野 治、大森 秀昭、清水 圭
高51回		池下 賢明、須賀 裕哉、天野 秀忠、西田 勝彦
秋田 真孝、梶野 貴経、白石 佑一、佐藤 英明		辰巳 裕紀、横山 佳之、鶴木 学、久保 隆之
萩原 将明、福田 哲也、中野 賢、阿部 智則		武田 真吾、中村 泰紀、越智 英行、亀井 慎哉
新井 亮輔、川俣 繁明、中田 孝宏、滝澤 一晴		北村 徳宏、小泉 孝人、白土 峰大、鈴木 邦洋
行木 達朗、若杉 文寛、中澤 利幸、濱野 和明		土橋 篤仁、北條 弘明、堀越 周、岡田 大和
堀越 亮、宇田 順也、大谷 賢志、乙丸 貴史		中村 和寛、植田 雄一、川井 絢矢、上加世田曉
染谷 快典、丹羽 大輔、古島 剛、皆川 裕司		岸 優太、戸澤信太郎、堀江 翔一、長 孝英
吉田 有徳、吉野 一哉、若西 良介		高55回
高52回		正木 健彦、森本 隆士
伊田健一郎、関本 英克、向井 崇平、倉持 裕之		吉田 宏昭、横川 三成、秦 武弘、牧野 恭平
嶋田 亮輔、関澤 泰明、高橋 智久、成瀬 隼人		金澤 正剛、塚村 匡、八津川俊太郎、池田 一輝
長谷川智洋、諏佐 肇、浜田 荣二、藤本 耕平		金子 優太、新村 佳央、仲島 裕皓、中村 昌希
鈴木 常太、千田 昌宏、坂本 泰宏、竹内 潤一		長岡 剛史、石崎 真一、市丸 真之、山崎 晃一
長岡 理大、平野 尚司、綿引 祥、落合 祐之		芦田 智、大河内伸剛、佐藤 亮太、本多 慶朗
高橋 聖和、関根 佑輔、赤松 篤、猪越 正直		川那辺 翔、林 航一郎、深水 雅生、八木 東吾
大塚 邦紀、馬渡 千高		
		市河 実、及川 隆博、小山 悠介、廣岡 尚樹
		坂本 直國、佐藤 遼太、高木 規宏、東野 敢
		三内 崇正、金子 駿太、菊地 史朗、朽名 正道
		國安 徹、鈴木 孝雄、朝倉健太郎
		高56回
		松本 恵弥、卯坂 一郎、高井 俊宏、秋山 元基
		白坂 健太、冨塚賢太郎、中山 卓哉、吉田 寛暁
		藤巻 亮、斎藤 雅也、麻生 剛弘、大棚 貴仁
		加増 智史、五月女真也、高橋 亮、辻 圭介
		角山 貴之、中澤 翔、渡辺 亮、今橋 貴
		岩村 淳弘、大森 拓、中山 周平、本橋 辰也
		吉田淳之助、荻嶋 博人、梶 雄司、豊吉 隆太
		石川祐太郎、小池 広高、小林 遼、島田 尚樹
		殿川 洋右、西川 敬朗、鈴木 悠也、谷口 圭
		玉野 裕志、松田 将吾、松本 裕希、上井 英司
		加藤 啓太、川田 大助、菅原 一輝、武田 翔平
		常本 浩之、久志本淳史、高梨 悠、滝澤 光明
		青木 直也、江利川 堯、大橋 正宏、海法 克享
		澤山 慶博、千葉 雄一、友野 尚弘、中田 義元
		福岡 卓也、石田 直也、木内 健義、栗原 瑛

訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

中2回 野中 敬一

中3回 忍田 太郎

中4回 長沢 誠

中西外茂雄

佐藤 正二

村山 光弘

中5回 鈴木 弘政

中6回 小島 鼎

常吉 齐

中7回 大原 泰治

酒井 政親

小松 幸生

中9回 小沢 秀義

長妻 義鑑

関口 二郎

公平 武

永田 忠哉

清水 透

田中勝之助

内山 正義

田中 勇

鹿倉 博也

角田 栄三

山崎 治憲

天野 茂樹

小野 明

保持 明

岩田 達美

中12回 三澤 義人

栗林喜久雄

伊本 恣

川村 良夫

毛利武士郎

中14回 片山 孝

工藤 一葦

宮崎 卓郎

平沼 三郎

山地 誉也

本田 磐雄

中15回 脇坂 勝明

中18回 大西 宏

中19回 板橋 金蔵

中20回 吉田 秀世

中21回 矢島 信男

竹若 厳夫

吉谷 忠男

中22回 井口 保夫

高3回 村西 信雄

高野 雄二

千田 昇

小林 輪郎

市田 周一

高6回 丸橋 修

勝野 恵之

鈴木 健二

高8回 吉村 規史

高10回 志賀 良一

高17回 田中 雅彦

高23回 河原 明男

高31回 海老原 肇

高55回 渡邊 忠一

鈴木 孝雄

敬称略

同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております